

奈良県知事×若手・中堅職員

座談会のテーマ

奈良県庁をもっと
働きやすい職場に！

PROFILE

東京大学文学部を卒業後、京都大学法学部に編入学。同大学を卒業後、弁護士登録。生駒市長(3期9年)を務めた後、2023年5月に奈良県知事(1期)に就任。



奈良県知事 山下 真

障害福祉課
2007年入庁



組織運営等に関する改善提案において表彰を受けた若手・中堅職員と知事が集い、提案内容やその背景について議論しました。様々な意見が飛び交った、熱い座談会の一部をお届けします。

1 知事に進言！ 若手職員が感じる課題とは…

福祉部門で障害児等支援関係の業務を担当しています。障害福祉サービスに従事する方々に研修を行っていますが、国が示すカリキュラムに沿った同様の研修を各都道府県でもそれぞれ実施しているのが現状です。これを関西広域連合のスキームを活かして効率的に行うことで、各府県の財政や職員の業務負担の軽減につながると考えています。

産業部門で金融支援関係の業務を担当しています。県庁内の様々な部署が関わる業務は、案件の責任の所在が不明確であったり、どの部署が主体となっているのが分からずプロジェクトが進みづらかったりと、どうしても部局内の調整に時間がかかってしまうところが課題だと感じています。部署を横断したプロジェクトチームを結成することで業務効率が上がるのではないのでしょうか。

文化財関係の業務を担当しています。文化財建造物の修理・事業費は年々増える傾向にあり、毎年工事発注が見込まれています。工事発注には、事業を実施して良いか何う文書を作成するところからスタートする必要があり、実際に事業を始めるまでに時間がかかってしまう。伺いを簡略化できれば、スピードアップと業務負担の軽減が図れると考えています。

福祉部門の調整業務を担当しています。職員が業務で使用する物品を購入する場合も、伺いからスタートして確認・承認の過程を経る必要があります。税金を使うため「本当に必要なもの

なのか、適正な価格なのか」など慎重に検討すべきとは思いますが、やり方次第でもっとスピード感をもって事務を進められると思います。そうすることで、支払いや契約の書類を多く確認する部署の負担軽減につながり、他の業務に使える時間が増えるはずです。

2 「縦割りの弊害」と「前例踏襲」を 一刀両断！？

前半のお二人のお話は、各現場で「縦割りの弊害」があるということですね。縦割りは責任と権限と役割が明確になるメリットがありますが、弊害も多い。縦割りをなくすことは難しいですが、その弊害をなくすためにどうするかを考えなければいけません。また、後半のお二人からは、「前例踏襲」に対する課題提起がありました。もともと実施が想定されている案件でも、事業を実施して良いか改めて意思決定をするということについての問題提起ですね？

そうです。伺いでは、価格や発注方法等のほか、改めて着手するかどうかの意思決定も行います。事前の計画段階から状況が変わる場合や事業を委託する業者側の状況が変わることなどありますが、変更がなくても、執行前に自身の上司や関係課の皆さんに、これで進めて問題がないかどうか改めて判断を仰ぎます。

文化財保存事務所
2018年入庁

Talk Session

福祉医療部総務課
2017年入庁

経営支援課
2014年入庁

あなたにとってのREVAMP! とは

予算決定時と業務執行時で事情が変わっていないのであれば、できる限り業務を効率化することを検討したいですね。また、物品を購入する際も、税金を投入するため「最も安い価格で買わなければならない」というルールは守るべきですね。ただ、購入までにかかる人件費や時間のコストをどう見るか。これも新たな視点として検討したいですね。…というのも、私は「無駄・非効率・形式主義」が嫌いなんです。やらなくてはいけない仕事はたくさんあると思いますが、皆さんの貴重な人生の時間を県庁の業務に費やしてもらっていますので、効率的に働けるようにしたい。本来の業務以外の「無駄な仕事」は皆さんにとっても、県庁にとっても、県民にとっても、もったいないですもんね。

3 県庁の働き方は、 まだまだ変えられる

物事を変えるときに一番コストがかかるので、そこがこれまでの「変えない文化」が生まれた原因でもあるのかなと。入庁して1、2年目は多感に疑問を感じると思いますが、時間が経つにつれて「守り」に入りがち。今、「これが課題だ」と感じているうちに着手したいんですね。大胆に変えていくことは、不可能ではないと思います。

2023年に知事が就任され、変化はあったと思います。それでも、まだまだ変えていくべきところは残っていると感じています。

他府県等の先進事例も参考にしながら、効率的に仕事ができるように検討したいですね。ここで皆さんに質問です。各案件を上司に報告・相談する場合、どうされていますか。

最近はデジタル化も進んでいるので、報告レベルであればチャットで完結します。細かな話になると、やはり紙での説明が多くなりますね。

私の場合、重要案件は対面で説明を受けます。それほどでもないものは、原則A4一枚にまとめてもらってシステム上で確認しています。

現場でも報告レベルではそうしています。ただやはり、相談事の場合は直接お話することが多いです。

以前、土木事務所で勤務していましたが、現場に行くほど意思決定すべきことが細くなり、図面や地図を見ながら相談していたなど。ただ、県庁内でもデジタル化が進み、柔軟な働き方ができるようになっている今、これまでの「県庁内の常識」はもっと柔軟に変えていけるのではと思います。何事も、失敗を恐れず、変えていくべきところは声を上げていきたいですね。

良いですね、期待しています。若い人に判断を任せられることは任せていかないと、と思っています。皆さんが今回提唱してくださった案を実現していくことで、県職員の働きやすさと業務効率が向上し、それがひいては奈良県全体の未来を明るくします。一緒に挑戦し続けましょう！